



題字 廉隅 進

奥鬼怒山荘50周年

記念行事を終えて

BN 487 鈴木 康弘

時の流れのなんと速きことか、我々4年部員であったあの頃から、もう皆古希を過ぎる歳になった。あの頃、そうあの頃は青春の真只中でした。

現地を見たときは、こんな所にどうやって家が建つのか考えられなかった。身の丈近くの熊笹の中に、比較的平らな場所ではあったが、本当に建てられるのだろうか、皆思ったに違いない。『若さと使命感』がみんなの力を結集させて、「今でしょう」「この合宿で何とかするんだ」との思いが迫り上げた、手造りの山小屋である。

振り返って思うことは、当時の1年部員。今回、五十周年記念実行委員長の大洞OBの代の部員たち。受験戦争の中、大学に進学して来てさあこれからと大学生活を楽しみにし

第 48 号

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会会報



現在の奥鬼怒山荘

ていた学生達。新人養成を耐え抜いてきた1年部員は、さぞや夏合宿を楽しみにしていたに違いない。ボッカ合宿解散時に、リーダーと抱き合って泣いていた1年部員も見られた。途中で退部した者も、残ってOBになった者も、つらかった夏のひとときが50年の歳月を以てよき懐かしい思い出になってほしいと思う。

10月6日の現地における式典は、感無量であった。山小屋は本当に大地に根付いたような風格を漂わせていた。建設以来手白の小屋はOBや現役部員たちにどれほど大切にされ続けたか計り知れない。

40周年時に、担ぎ上げ植えた山ぼうしが一本だけ根付いた。いつか、山ぼうしの花が咲く頃にゆつくりと、仲間と訪れたいと思う。

明治大学 奥鬼怒山荘

落成50周年の集い

■日時 平成25年12月21日(土)

13時00分～17時30分

■場所 リバティタワー23F 岸本・宮城ホール

■式次第

一、開会の言葉

一、奥鬼怒山荘50周年事業実行委員会委員長挨拶

一、ワンダーフォーゲル部 部長挨拶 大洞 聰 (579)

一、なため会 会長挨拶 長峰 章 (1000)

一、乾杯 天野 徹明 (477)

一、歓談

一、ワンダーフォーゲル部 監督挨拶

一、ワンダーフォーゲル部 主将挨拶 諏訪本 充弘 (751)

一、写真撮影

一、部歌・校歌斉唱

一、閉会の言葉

一、閉会の言葉

一、閉会の言葉

一、閉会の言葉

一、閉会の言葉



■出席者(敬称略)：146名 (なため会会員113名、現役学生33名)

●なため会会員：113名

157 中村 輝雄	181 新村 貞男	186 田中與一郎	228 島林 順三	299 大内 善一	301 小宮 盛治
313 西村 幸一	339 足立 康弘	392 内田 吉成	393 植木 正子	394 中島 禎	395 中山 光史
398 小林 伸行	419 北村 恵子	450 鈴木 要介	451 山田 祥二	455 飯村 朋園	468 鹿嶋信太郎
477 天野 俣明	483 羽部 隆	484 中田 弘	487 鈴木 康弘	490 長嵩 圀好	494 木島 敏夫
495 深田 裕弘	498 澤井 隆弘	501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	508 樋口 守	519 佐藤 昭
524 森谷 愛子	625 菅野 隆夫	764 高橋 寿子	525 志村 和久	527 池田 陽一	528 天野 義美
532 鈴木 正彦	538 佐藤 寛	539 小島 政男	543 井出 健一	548 守重 芳樹	549 三嶋 保郎
552 坂上 雅彦	558 奥倉 勇一	565 稲葉 皓一	566 松本 栄作	570 一色 雅男	571 内海 英徳
597 大洞 聰	598 長侶 栄喜	599 清水 邦彦	601 池上 勝彦	603 土屋 章	604 難波 武夫
605 吉池 格	607 伊丹 直樹	610 石田 正	612 山内 利人	613 片山 直文	614 石井 克太
627 和田 満	640 小林 浩	663 吉沢 利男	682 森田 峰彦	683 横手 一男	696 笹野 真民
705 杉山 裕	710 関川 正博	717 住田 孔一	719 鈴木 幸代	725 福本 利直	728 横尾 廣志
749 並木 勝弥	751 諏訪本充弘	753 小松 宏之	756 小山まさみ	775 小田野義之	776 高島 昇
778 宮澤 邦雄	785 小川 公平	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	795 濱田 稔	835 猪狩 稔
845 加藤 章一	858 遠山 高広	859 丸山 貞二	865 高田 昌也	866 倉持 高志	872 矢島 敏男
879 井上 稔也	886 佐藤伊津英	897 山下 仁志	909 谷 浩明	1000 長峰 章	1006 安部 好洋
1064 井上 堅一	1075 清水 晴日	1115 上原 誠	1120 天野 敬之	1129 福井 伸夫	1156 中村 央
1226 杉山 文啓	1236 島田 浩幸	1242 片貝 友哉	1243 山崎 浩樹	1246 久野明日香	1247 澄川 達也
1252 望月 啓矢	1257 井上なぎさ	1258 香澤 優子	1267 山脇 英明	2120 鈴木 元典	

●現役学生：33名

準0B 西村 怜	準0B 渡邊 弘樹	4年 荒澤 裕司	4年 内山 嘉穂	4年 勝田 三月	4年 上出 稜
4年 鴨志田岳大	4年 鈴木 優花	4年 鈴木 竜一	4年 諏訪部貴亮	4年 田口 和昌	4年 中沢 公大
4年 馬場 大志	4年 馬場 隆彰	4年 眞野 祐輔	4年 山崎 友也	4年 渡辺 千佳	3年 宇津木俊亮
3年 白井 真彦	3年 野村 啓悟	3年 本行 優生	3年 前川 晃慶	3年 増田 拓也	3年 望月健太郎
2年 池田 將太	2年 今井 悠貴	2年 近藤 諒生	2年 佐藤 光時	2年 高橋辰之介	2年 神内 亜実
2年 永田 真帆	2年 松田彩友美	2年 由水 雅也			



山荘建設時に現役部員だった皆さん



大洞委員長の挨拶

お見舞いお礼

手白沢温泉 宮下 千早

なため会の皆様には2月25日に発生した日光地震におきまして、奥鬼怒山荘も被害を受けたにもかかわらず、わたしも手白沢温泉に対して、お見舞いありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

ようやく、建物の補修も終わり、露天風呂の修理も終え、9月いっぱいでは砂防工事も終わる運びになり、本来の生活にもどることができました。きたるべき山荘の50周年には、なつかしいOBの皆様を迎えることができることを、いまから楽しみにしております。

また、当温泉を予約の際には是非とも明治のワンゲルのOBだとおっしゃってください。愛犬の（がく）とともににお会いに歓迎いたします。

平成25年8月31日



■平成26年 なため会ワンデルング企画

企画振興部

今年も多彩なワンデルングを企画しました、事前に参加のほど宜しくお願い致します。

【春】5月24日（土）日帰り

箱根 神山（1,439m）

駒ヶ岳（1,356m）

ロープウェイで登る駒ヶ岳から箱根最高峰の神山へ、中央火口群の双壁を結んで歩く箱根のゴールデンコースです。

【夏】8月30日（土）日帰り

上高地 散策

マイクロバスで行く、避暑地の上高地（大正池、河童橋、明神池等）をのんびり散策します。

【秋】10月25日（土）、26日（日）1泊2日

赤城山 黒檜山（1,828m）

駒ヶ岳（1,685m）*A・Bコースあり

大沼湖畔から百名山の黒檜山に立ち、ミニ尾瀬とも呼ばれる覚満淵に下りる人気の周遊コースです。

・宿泊…音羽倶楽部

前橋郊外、神沢の森の高台にある瀟洒なホテルで、フランス料理をお楽しみください。

【冬】平成27年1月31日（土）日帰り

丹沢山系 大山（1,252m）

16年前、平成11年なため第1回ワンデルングのリメイクです。

*お問合せ先…企画振興部メールアドレス

（左記の部員5名全員に送信されます）

kikaku@natamekai.org

FAX : 042-474-3811

661 大賀徹雄 携帯 : 090-1693-1562

728 横尾廣志 携帯 : 090-4937-2406

795 濱田 稔 携帯 : 080-4730-8594

1064859 丸山貞二 携帯 : 090-8248-3032

井上堅一 FAX : 03-3994-5953

『いま』 想う やま ひと

2013夏

BN 906 石田 猛

「♪大学出てから十余年」(今でも偶に思い出される亡き善次郎監督の名調子。懐かしいシワガレ声) その一節「十余年」どころか「30年」の年月(トシツキ)が、あつと言う間に? 過ぎ去った『いま』。昨年、高年齢者雇用安定法が制定され65歳まで定年延長になった一方で、人生の折り返し点をとうに過ぎていくのに老化は他人事とこれまで意に介さなかったのが災いしてか、最近とみに痛感する体力・筋力・バランス感覚の衰え。今年、史上最高齢でエベレストに登頂した三浦雄一郎氏の足元には及ぶべくもないが『自分なりの何かを!』と云う野心や野望も下界の日常生活で掻き消され、今は「定年まっしぐら」。

会社で一応所属する山岳部には日本百名山を制覇したメンバーも。が、しかし、日本で最も伝統あるワンダーフォーゲル部に身を置いた山好きの一人としては、『往時の山歩き』の反動で、山道があり道標もシッカリ付いた、欧米人も絶賛する日本山岳風景の十分樂しめる山歩きを最優先。そのためにも山行日程を一月前から天気図や長期気象予報と首っ引きで十二分に調整する様な輩には、雲の切れ間を待つて景色を楽しむ余裕のない? 只、踏破を目指すだけの日本百名山行脚には醍醐味を

全く感じない。

片や、中年から山ガールまで空前の登山ブームの中、昨年の遭難者数は過去最大、その4分の3を中年が占めるとか。『自分は絶対にそうはならない』と自負はある。否、あった。が、昔取った杵柄が今後は通用しないものと自省(自制?) せねばならないのかも知れない。

そんな中で今年GW、山登りシーズン幕開けの足馴らしに行った鈴鹿山脈藤原岳1144m。登山口手前で靴紐を確認、いざデッパツと顔を上げると、でっかいオフロード車トヨタFJクルーザーが目の前に。『山登りに格好の車だな。だけど省エネのご時世に燃費は良くなさそうだな』と、ドライバーを覗き込んだら、何と『なため会 天野 徹明会長』? 吃驚! 曰く『何だか見慣れた時代遅れのユニフォームにまさか……』と思つて停車した! とか。お孫さん(長男BN1120天野敬之氏のお子さん)二人を連れての山登り。近いうちに、天野家三代で仲良くMWVを背負つて立つ日も近い? 頼もしく羨ましい限り。下界での再会を約し、携帯番号を交換して別れた。思わぬ出会いを創出してくれたユニフォーム。MWV合宿同様、山に向かう初日には必ず着る事になっているが、ポロポロになつて着られなくなるまで、これからも愛用しよう。(後日、名古屋近郊在住OB—BN612山内利人氏 BN682森田峰彦氏 私の同期BN612高橋恭久 と一緒に名古屋栄の敷居の高い

(値段も?) 洋食レストランで美味しいディナーを天野会長にご馳走になった。コレマタおんぼろユニフォームの特典? 効用? リサイクルシヨップに出さずに良かった?)

先輩と云えば、忘れてならない故鈴木善次郎監督。社会人になって初めての勤務地松本市の二年間で3度、北アルプスへ一緒した。毎回、あの力ナ釘流達筆? で独身寮へ届いた有無を言わせぬお誘い(命令?)。何故かいつも天候に恵まれた。

涸沢まで徳沢経由を嫌い屏風の頭を捲くように慶応尾根を辿る難ルートを経て到った奥穂山頂。初対面のパラグライダー野郎に上高地に着陸するまで一部始終のビデオ撮影を頼まれ、寒さに凍える指でカメラを回した。頂上から10メートルあるかないかの斜面で風を受けて見事な滑空であったが、岳沢を降れば6~7時間はかかるどころ、空路でも一時間以上と意外に時間のかかることには驚いたが、自らも爽快な風に身を任せ、ゆったりフライトしている様な不思議な体験をした。

針ノ木岳山頂では、名画『黒部の太陽』の舞台で今年竣工50年を迎える『黒部ダム』と影富士ならぬ『影針ノ木』を翡翠色の湖面に映す黒部湖を眼下にし、コーヒを片手に雲ひとつない北アルプス全景を満喫、至福の時間を過ごした。すぐ東の蓮華岳山頂付近ではコマクサの大群落に刮目。(今も毎年咲いているだろうか? その後、燕岳近辺でもこれに勝るとも劣らない群落に出合うものの、感動

は一番)

白馬岳へ行く途中、天狗原で見た、正に『山燃える』紅葉の190度パノラマは私の臉に焼き付いて、生涯色褪せる事はないだろう。この様な山々で現役時代とは違った監督の一面に触れ、また監督の人柄から初対面とは思えぬ色々な登山者達との交流もでき、実に楽しい山行であった。終生の想い出である。よくよく考えてみると当時、監督は六十歳代後半。二十代との体力差を微塵も感じさせない健脚。意外と身近なところの意外な『偉人』。自分があやかりたいと渴望する今日この頃である。

そこで冒頭の『自分なりの何かを』を色々と考えた末、まず今秋には長年の懸案だった『剣岳』。今の体力では到底、早月尾根や日本三大雪渓で唯一登っていない剣沢雪渓をつめる事は無理だろう。登山者も少なく、登りやすくなる初雪便りの届く頃、室堂からユックリのんびり行こう。だが、ゆくゆくは『朝日岳から焼岳まで北アルプス全山を繋げる』と覚悟を決めた『いま』であった。

日光連山 久々の藪こぎ

BN 1017 山口 直樹

日光の山々を歩いた経験は過去2回ある。初めての出会いは大学2年秋の日中慶明4大学会同Wで戦場ヶ原から白根山、金精峠、根名草山を経て手白山荘まで歩いた。同級生の

安部さんと中大パーティーに加わり、雨模様の中、ザックを他大学の2年生と交代しながらダブルで担ぎ、声を張り上げ各校の応援歌を歌いながらの山旅で、紅葉が見事だった。次は、20世紀末、東照宮より入山し、女峰山を目指した。唐沢小屋で1泊したが、たまたま同宿した方々と夜、酒を呑みながらの山話が楽しかった。翌日、故鈴木先輩の慰霊碑の前で合掌、黙祷した後、女峰山、赤蘆山を経て霧降高原までの旅だった。女峰山頂からの光景は圧巻で、小真名子、大真名子、男体山、太郎山、白根山が眼前に堂々とそびえていた。「いつか、また来る!」と心に誓い、以来、10数年の時を経て、私は3度目の日光行きを決意した。

6月17日、04:47成田発の京成1番電車で浅草に向かい、コンビニ二でおにぎりを買ひ、06:20発の東武日光快速に飛び乗り08:25、日光着。バスに乗り換え男体山登山口である中禅寺湖畔の二荒山神社で下車。車中は満席であったため、酒や食料、水を持ち歩いたためのペットボトルやシユラフで一杯になった新品ザックを抱きかかえ、いろは坂通過時、左右振られないようにバランスを取るのにちよつぱり苦労した。学生時代にサブザックとして購入して以来30年近く愛用した、さかいや“赤いアタックザックのハート部分の糸がほつれかけてきたため、万を期して好日山荘で新調したばかりのマムートの黒いアタックザック、併せて昨年秋、巣鴨「ゴロー」で

オーダーメイド購入したビブラム縫い付けのピカピカの山靴の記念すべき初山行だ。

二荒山神社で入山料500円と引き換えにお守りをいただき、山行スケジュールを綴りに記入後、拝殿に無事を祈念。その後、3位ほど神聖な水を汲み、10:00前に神社から歩き始める。今日はピークを越え、志津非難小屋まで、約5時間の行程。明日は志津乗越から太郎山を越え、湯元温泉まで縦走する予定だ。天気はくもりの予報にもかかわらず日が射しており、雲は遥か上空にあるため景色も良く見える。絶好の登山日よりだ。登る人、降る人に所々で出会う。途中で昼食のために40分くらい休憩したが、13:00過ぎに男体山山頂に到着した。眼下に中禅寺湖、雲間から白根山、尾瀬、上越の山々、太郎山、大真名子山などが望まれる。気持ちがよく時間があるので、写真を撮りながら景色を堪能し、14:00過ぎに北側へ降り始める。男体山はピストン登山する人が多いようで、そこからはばったり人影が途絶え、静けさに包まれたゆるやかな眺めのいい尾根で気持ちのよい降りを楽しむ。眼前に明日登る予定の太郎山も雄大に聳えている。林帯に入ってからしばらく降り15:30頃、志津非難小屋に到着した。丸太を組み合わせたログハウス調の立派な二荒山神社管理の山小屋で、無料で宿泊できる。他に宿泊者はいないようで、ありがたく寝床を準備する。水は、脇で濁った水のみ採取でき、レトルト食品を加熱する目的等には使用可能

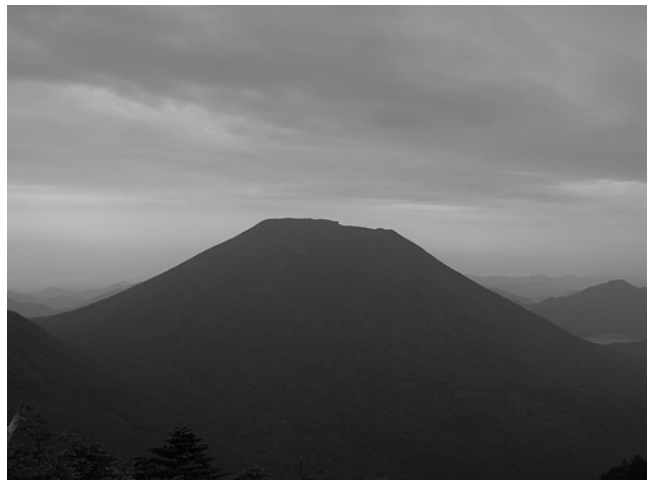
だ。夏至も近く、また真昼間。小屋の前で持参したビールを飲みながら夕食の準備をしていると、林の中から鋭い大きな鳴き声が聞こえる。目を凝らすと木々の間から、鹿が1頭、こちらの様子を見ている。写真を撮り、手招きをするが逃げられた。自分の生活圏に変なおッサンが勝手に割り込み、酒呑んで飯食って不快な思いをさせたかも知れない。ゴメンナサイ。食後、焼酎、ウイスキーを楽しみ、19:00頃就寝した。どれくらい寝たのか、夜中に目が覚めた。ヘッドライトで時計を見ると23:00頃。「まだ夜は長いのに……」と思いい目が冴え眠れなくなってしまった。その後寝たか寝ないかよくわからない。

翌朝、03:30頃起床しレトルト粥を温めて食べ、04:45には出発。5分程で林道と出会い、林道を西に降る。途中で車から降りて歩いてきた年配の男性は、大真名子小真名子を経て女峰をピストンすること。お互いの無事を折り別れる。昨日と違い曇り空だが雲は高く男体山もくっきり見える。今日も良い登山日和だ。05:30頃、戦場ヶ原へ降る林道分岐を過ぎ太郎山登山口へと向かう。15分程で登山口に到着。ここから太郎山ピークまで標高差700m余りの登りだ。登山道は踏み跡程度で判りにくい。30分くらい登ると、石楠花の花が咲いている。珍しいので写真に収める。この後、太郎山に取り付いたあたりから倒木が多くなり、いよいよ踏み跡がわからなくなってくる。大原則は「迷ったら明確な地点

まで引き返す。」だが、引き返しても判らない。ピークを諦め下山するか否か迷ったが、地形図とコンパスを確認し、尾根を北西に登れば太郎山ピークに至るため、藪こぎを決意。しかし傾斜が急で倒木が多く、非常にしんどい。途中で何度も男体山、大真名子、小真名子ピークを確認し、現在地を推測しながら、3時間半にわたる激闘の末に太郎山南の小ピークに辿り着く。眼前に男体山が雄大に広がっている。いい眺めなので、写真を撮り、水を飲む。いつても安心ばかりはしていられない。「既に10:00近くなのに太郎山までまた藪こぎか？」と落ち込んでいた矢先、幸運なことにまばらな樹林のあいだから、僅か低い位置に湿原が見えた。ザックを背負い、飛ぶように湿原を目指し降ると木道があり、お花畑と記載された看板を発見。花はなく、ただの湿原だったが、山道に再会できた喜びで胸がいつぱいだ。ヤッタ!!! 写真を撮った後、疲れた体に気合を入れ太郎山に登る。20分程でピークに到着。やれやれ、やっと安心して食事をとれる。南側に先程の小ピーク、更に男体山。西側には女峰が聳える素晴らしい景色だ。30分程休んで10:50に太郎山を出発し、大幅な遅れを取り戻すためバンバン飛ばす。その結果コースタイムを50分縮め12:05に山王帽子山に到着。樹林の中で眺望は得られなかったが、飛ばしすぎて大汗を掻いたので水飲んで、飴をなめ20分休憩した。ここから、降りになり12:50、車道に出会い山王峠到着。ここか

らは涸沼、切込湖畔、小峠を経て湯本温泉までハイキングコースを歩く。13:10涸沼畔に着き10分休憩。広大な湿原風の原っぱで眺めがよい。ここから林間を北西に向かう。10分位で北側に切込湖が姿を現し、湖畔を西に向かう。14:00切込湖西端に到着し休憩。年配の男性が1人、休憩しており話を伺うと湯元からハイキングに来たとのこと。湖は大きく、湖を隔てた東側に本日苦勞して超えてきた太郎山、山王帽子山が聳え、いい眺めだ。写真を撮る。

空模様が怪しくなってきたので、10分ほど



太郎山南方小ピークより男体山

で休憩を切上げ、本日宿泊予定の湯元温泉、民宿「かつら荘」に向かう。頭の中は「露天風呂とビール」で一杯になり、小峠に向け全速前進。小峠を越えた頃、雨が降ってきた。合羽の上着を着て、ひたすら降り15…00過ぎ、湯元温泉街に到着。祝杯用のビールを求め、雨の中、閑静な温泉街をさまよい、ホテルの売店で無事購入。雨を避け、バス乗り場の建物の軒先で祝杯。「うまい!!!」。その後、16…00頃、民宿「かつら桂」に無事到着。露天風呂に浸かる。裏庭に設けられ、静かな佇まいが旅情に花を添える素晴らしい風呂だ。広さは余りなく、小学生の修学旅行に同行しているというカメラマンの方と二人で山の話に華が咲く。一時間以上露天風呂の風情を楽しみ、部屋で先程購入したビールの続きを楽しむ。至福の時だ。夕食は湯葉など、心のこもった郷土料理が並ぶ。とても美味しく、空腹だったのでお櫃に用意されたご飯を全ていただいた。その後、外を見ると雨も止んだので、散歩すると湯元温泉スキー場に程近い場所だった。近くの旅館の裏庭で修学旅行らしい小学生がキャンプファイヤーをしている。かつて私も小学校6年生の修学旅行で湯元温泉にきた記憶が蘇る。宿に戻り、山行の残りの食料を肴に酒を楽しむ。明日は天気がいければ戦場ヶ原を散策して帰ろうと想うが、雲行きからするとダメな様子だ。早く宿を出られるよう朝食用おにぎりをいいただき会計を済ます。8,500円程度で、素晴らしい露天風呂と

美味しい食事、綺麗な建物を考えると超優良、七つ星の宿だ。

翌朝、04…00頃起きてまた露天風呂を楽しむ。外はかなり雨が激しい。戦場ヶ原散策をあきらめ、部屋でおにぎりをいただき、06…00頃バス停に向かった。始発のバスで日光駅に向かい、東武線春日部乗換え柏で下車。高校時代親しんだ街で知る人ぞ知る「ホワイトギョーザ」に向かい昼食、土産に冷凍ギョーザを購入し、我孫子経由JR成田線で帰宅。

今回は途中で踏み跡がわからなくなり倒木、藪と格闘しながら無事目的地に辿り着けるか否かわからない恐怖感の中、必死に現在地を見極めながら傾斜のきつい尾根を前に進んだ。その後、無事、山道に出逢ったとき、至極の安らぎを感じた。とても思い出深い山旅だった。

梅海新道縦走

BN 683 横手 一男

以前から興味を持っていたコースで、幾度か企画されていましたが、日程が合わず行く機会がありませんでした。今回、空色山の会の椎橋さんが計画した梅海新道に参加することができました。案内文によりまずと「梅海新道は北アルプス後立山連峰の朝日岳(2418m)より親不知に至る延長27キロに及ぶ縦走登山道である。アルプスと海をつなぐ道として、1971年に地元の方々が

山岳会により開設された。1894年、W・ウェストンは親不知の断崖に立つて、ここが日本アルプスの起点であると宣言した。新道名はツガの樹林を抜けて日本海に達するので「梅海」と名付けられた。

梅海新道の自然は地質、地形、植生などに特徴があり、学術的価値が高い地域と言われている。地質は白馬岳、朝日岳間が古生代の變成岩や蛇紋岩で、黒岩岳より中生代。ジュラ紀、白亜紀、そして新生代の親不知火山岩で日本海に没している。植生は高山植物より亜高山植物、低山、暖温帯海岸植物の垂直分布を見ることができる。」

日時 平成25年8月15日～19日。地図―白馬岳、黒薙温泉、小川温泉、親不知(2万5千図)。参加者―椎橋リーダー、杉山サブリーダー、鈴木元典さん、横手、K持さん、Y田さん、Y口さんの7名。8月15日7時新宿駅西口より車で出発。この日は西口の道路はバスのツアーの車で混雑しており人も多数あり賑やかでした。一路、蓮華温泉へ向かう。平岩からは林道を走り、高度をあげていった。温泉の駐車場は満杯に近かった。宿泊の手続きをして落ち着いてから、男性群は露天風呂めぐりをする。三国一湯はカップル用で狭くて湯はぬるいので、そこから仙気の湯に行く。見晴らしが良い場所で見客がいた。湯は高めで6～8人くらい入れる広さだ。ここに入ることにする。旅の疲れを癒しながら、明日登るコースが見渡せる場所である。仙気の

湯の上に菓師の湯がある。帰りは黄金の湯を通って宿に戻る。黄金の湯は4〜5人くらい
の広さで湯は良い加減である。明日の天気が良いことを願って寝る。8月16日蓮華温泉に朝食と昼食頼んだら、おにぎり2個の弁当である。朝は食堂で食べ、5時15分出発。曇り空の中を歩く。キャンプ場を過ぎると木道となる。緩やかに下り5時55分兵馬の平湿原に到着する。小川も流れている。雪倉岳や朝日岳が眺望できる。瀬戸川へは樹林帯の中、すべりやすい急坂を下る。川には立派な鉄橋が架けられている。6時40分着。そこから緩やかに登り、左にひょうたん池を見ながら白高地沢に沿った道を進むと白高地沢に架かった鉄橋を渡る。やがてカモシカ坂の急登になる。高度を上げていくと、視界が開けて緩やかな斜面になり草原にでる。お花畑になり高山植物が目を楽しませてくれる。10時55分花園三角点を過ぎて、広い草原に出るとベンチがあり、近くに水場がある。冷たくて美味しい水である。のどを潤して顔も洗うと清々しい気分になり、暑さも一時忘れる。K持さんに冷たい水を汲んで持つていくとおいしそうに飲んで元気が出たようだ。あやめ、クルマユリ、色とりどりの高山植物がすばらしい。この先は稜線上を歩き、振り返ると草原の景色、湿原の様子が眺望できる。青ザクと呼ばれるザク道を登りきると五輪の森となり樹林帯に入り、山腹をトラバースしながら白高地に入っていく。沢筋の水場で昼食となる。そこから

先も緩やかに登り、樹林帯が終わり、視界が開けてくると斜面から清水の流れが行く筋もあり、チングルマ、ハクサンコサクラ等のお花畑が広がっている。場所により群生している高山植物の種類がちがっていて花園が楽しめる。美味しい水を飲みながら歩いてゆく。雪溪から流れ出る冷たくて美味しい水を堪能した。雪溪をトラバースしていくと、やがて朝日岳の鞍部（吹上のコル）に13時40分着。ここが梅海新道の分岐点になっている。北側に朝日池、東方向は梅海、コルからの眺望は良い。砂礫帯には高山植物が咲いている。ハイマツも密生している。広い斜面をジグザグに登っていくと左手に雪溪がある場所出る。その横をまわっていくと、周辺にハイマツが点在してやがて朝日岳山頂（2418.3m）に14時40分着く。天気は雲が出てきて見えない。ミヤママツムシソウやタカネシオガマ等が咲いていた。休憩していると、白馬岳から縦走してきた女性単独者が話によると三年前に梅海新道を歩いたので様子を聞いてみた。「梅海山荘からさきは道も整備されてなく、田舎の山のように、虫も多くて歩きにくい。長い道のりで、親不知ホテルに着いたときはバテバテでした。ホテルを予約していなかったので満員で宿泊できなかった。ホテルの人が親不知駅まで送ってくれたとのことでした。」明日はわが身だな！と思った。山頂から西に延びる尾根を下り、斜面にはチングルマ、ハクサンコサクラ等の高山植物が咲い

ている。朝日小屋を目指して下り、小屋が見えてからが長かった。15時35分着。小屋の前には広いテント場があり、色とりどりのテントが並んでいる。小屋泊まりは予約が必要とのこと、われわれは小屋の一部屋7人で確保された。夕日の時間は18時30分ごろで、雲が多くて海に沈むところは見られず雲のかなたに消えた。今日の行動に対して泡で乾杯する。歩行距離12km、累積標高差1415m、1735m。8月17日朝食5時に摂り朝日小屋を5時37分出発する。朝日岳を目指して登る。今日は視界が利いて周辺の展望が良い。高山植物の豊富な斜面に登り、目を楽しましてくれる。朝日岳からの展望はすばらしい。6時47分着。剣岳、立山、毛勝三山、僧ヶ岳、駒ヶ岳、白馬岳から旭岳、清水岳の稜線、小蓮華岳、頸城三山の妙高山、火打岳、黒姫山、焼山、これから向かう梅海新道の峰々が見渡される、日本海が見えるほど展望が抜群だ！砂礫帯を下り、吹上のコルに向かう。7時26分吹上のコルに到着する。ここ分岐から梅海新道が始まる。日本海を目指してアルプスの高みから海拔0mまで下る長大な縦走コースである。岩にペンキで左が梅海新道と記してある。オオヒラビソの林を進み、やがて林を抜けて視界が開けて木道になり照葉ノ池が見えてくる。池に周りはチングルマ、ハクサンコサクラ、日光キスゲ等のお花畑になっている。趣のある場所で草原の中を歩く。長梅山の頂上付近は、丘のように広く平坦になって

いる。道は下りになり、アヤマ平に8時55分到着する。ヒオウギアヤマの群生が湿地帯を彩る。アヤマ平を過ぎると樹林帯の急坂になり、雪溪が残る斜面を見ながら歩き、池塘が現れ、黒岩平の広い草原に出る。ここも高山植物が咲いている。10時09分着。冷たい水が豊富に流れている場所で昼食にする。休憩している女性単独者が居り、やはり梅海山荘へ行くようだ。この場所から黒岩山から犬ヶ岳の縦走路が見渡せる。暑さを和らげるのに冷たい水で顔を洗う。黒岩平から湿地帯を通り樹林帯を登ると、中俣新道の分岐がある。そこを左に道を登ると黒岩山（1623.6m）の山頂に出る。展望が良く山頂に11時18分到着する。稜線を上り下りを繰り返して文子ノ池を過ぎて、登り返すとサワガ二山（1612.3m）の山頂に着く。360度展望が

利き朝日岳が見える。小さな登り下りを繰り返して、鞍部に出る。14時着。ここで北俣の水場で水を汲む。沢を5分下り、山肌からの濾された冷たい水が滴り落ちていた。美味しい水だ。汲むのに時間がかかる。後から、女性単独者がサワカ二山方面から下りてきた。話によると「今日は白鳥山荘へ行くつもりだったが予定を変えて梅海山荘にテントを張ることにした。」水は下から補給してきたと話した。冷たくて美味しい水ですと話すと興味を示して水場へ出かけた。われわれは十分補給していく。ここから登り下りしてヤセ尾根を進む。台形の犬ヶ岳（1593m）の山頂に

15時30分到着する。少し下ったところに梅海山荘がある。15時40分着。展望は良く、運が良ければ朝日と夕日が眺望できるらしい。先着者は一階に陣取っていた。われわれは二階に荷物を下ろして休憩する。トタン葺きの小屋なので暑くて外で涼む。夕食の準備まで時間があるので、登山者たちと情報の交換をする。黒岩平で会った女性はテント設営、北俣の水場で会った女性もテント設営で大阪から来ていた。単独行の男性は小屋泊まりだ。夕食は小屋の前で準備して食べた。水は北俣の水を使用した。小屋には雨水を溜めているタンクを利用すれば、水を調達できる。夕日の時間は18時30分〜40分で日本海のかたは雲で色の出方が少なく黄色と橙色であった。夜空には星が瞬き、杉山さんの説明によると「東の空には、はくちょう座のテネブこと座のベガ、わし座のアルタイルの1等星が夏の大三角がはつきりと見えた。空気が澄んでいれば天の川がそこに見えるのだ。」小屋の備品の毛布を使用して寝た。歩行距離14km。累積標高差745m。11295m。

8月18日夜中に一階の人達が起きだして2時に出発した。昨日の話では日中の暑さが堪えるので涼しいうちに行動したいと話していた。翌朝、われわれは小屋使用料1人2千円と毛布5百円を箱に納めた。山荘を5時07分出発した。急坂を下り、稜線を忠実に歩く。黄蓮山5時07分を通り、ブナ林がきれいな鞍部に出ると黄蓮の水場がある。下り5分、沢

から水を汲む。ブナ林の中を歩いて菊石山7時07分を通り、ガレ場のある山、下駒ヶ岳へは急坂で木の根につかまりながら登る。7時57分着。山頂から少し行くとガレ場のヤセ尾根となり展望が利いて、梅海山荘と白鳥山山頂にある白鳥小屋が見える。さらにいくとかのピークを越えて白鳥山の山頂に9時22分到着する。山頂の手前の水場は5分ほど行くと沢筋にあるが、岩肌水が垂れていない状態で水は汲めない。白鳥小屋はきれいに清掃されている。トイレは別棟にある。白鳥山から急坂を下る。左に山姥の洞の道を見て、さらに下る。やがて沢地形の場所にて、10時42分に沢筋で休憩して昼食を摂り、シキ割の水場で水を汲む。ここからさらに急坂を下ると、地藏さんが祀られている、車道の通る坂田峠に12時11分着く。日差しが強く暑い。峠から樹林帯の緩やかな登りで尻高山に13時10分に到着する。山頂に地藏さんが並んで広くなっている。山頂から下ったところで車道を横断し、再び山道に入る。二本松峠から入道山を経て、国道8号に下る。国道を渡ると目の前が親不知ホテルで15時53分到着する。標高80mである。さらに下り、JR線のトンネル跡は涼しい場所である、さらに下り海拔0mの日本海に出る。海岸は狭く、荒波に揉まれて石はどれも丸い。海水はきれいで温かった。長かった梅海新道を縦走して七人が歓喜の姿と喜びの声を上げる。やり遂げた達成感を味わい、ホテルにて入浴して身体の汚れと疲れ

を癒して泡で乾杯する。美味しいホテルの料理を堪能する。歩行距離14km。累積標高差730m。12240m。

8月19日朝、W・ウエストン像のところへ行くと親不知の断崖から日本アルプスの起点であると宣言した場所だ。8時30分車で一路、東京へ向かう。その前に、大学で同期の糸魚川在住の八木兄（元デンカ会社員）と会う約束をして糸魚川ICで会う。私は5年ぶりの再会で杉山さんは卒業以来の再会でした。梅海新道縦走の話をしたら、デンカ（株）の山岳会が40年まえから切り開いた道でさわがに山岳会として小野さんが活動していたのとこのことでした。いく前に連絡してれば詳しい話が聞けました。車は順調に走行して無事に新宿に到着しました。椎橋リーダー、杉山サブリーダー、鈴木さん、K持さん、Y田さん、Y口さんのお陰で楽しい山行になりました。ありがとうございます。

最も安易なクビレ田代

BN 751 諏訪本充弘

われわれ、MWVのOBにとっては、心のふるさとともいえるクビレ田代ではあります。私が現役のころはしっかりと山道があり、実川からクビレ田代を越え長須ヶ玉山まで、ピストンできたものです。

しかし現在はきれいなさっぱり山道はなくなっていました。リーダー養成では主に

矢櫃沢、大丈沢を遡行してクビレ田代に向かつておりました。

三日目のサイト地は、孫兵衛山を下った稜線で取ることがほとんどで、水がないので、なんとか早く着いて、水マネージを出来る時間を取ろうと、昨年来クビレの近道を模索していたのですが、昨年の6月マネージでは今回の一つ手前の沢を遡行したのですが、あまりにもヤブがひどく、ウドとタラの芽を収穫しただけで、撤退いたしました。今年6月のマネージと本番のリーダー養成で使ったルートが現在のところ最も安易にクビレに行けると考え紹介します。

針生山荘をベースにすると日帰りで充分往復は可能です。車の行動が基本ですが、早朝山荘を出て、夕刻、採ってきた山菜（あぶないのもあるが、キノコ）をてんぶらにして、根曲り竹のたけのご飯に舌鼓を打つのが理想です。

山荘から七入まではゆつくり行つて約一時間です。そこから林道に入り矢櫃沢の先の新型砂防ダムまでは、いつでも車は入れます。整備がしてあると、黒溶沢出合いまで進出可能です。（写真1）

ここから沢の入口までは20分ほどです。従つて、砂防ダムの駐車場からは40分ほどになります。七入からだ、1時間半ほどの行程になります。沢の入口は目立たない場所です。写真で紹介できませんが、赤布でしるしてあります。沢は入ると直ぐに二つに分かれ



（写真1）黒溶沢出会

て、向かつて右側の沢を登ります。

ここより小ピークまでは300mののぼりです。途中困難な箇所は二箇所です。最初の小滝は流木に足場を刻んでおきましたので容易にのぼれます。この沢の大滝は右側（左岸）を巻きます。手馴れた登り手は途中で岩に取り付くのが洒落た登り方です。尚、岩の上をご神水風に流れているので、ここで水を汲んでおくのがいいでしょう。

標高1460m辺りで、左側（右岸）がガ



(写真2) 稜線のヤブの状況

れているところで、沢は左に緩やかにカーブします。直進する沢は水がなくなります。中間にコシアブラの木がありますが、悔しいことに高すぎて取れません。登る道具か、高枝きり鋏がなければどうにもなりません。1550m付近にミニ湿原があり、まもなく稜線に出ます。ここまで、水量はたいしたことなく、水に濡れる心配はありません。むしろ、田代周辺のぬかるみのほうがうつかりすると濡れます。



クビレ田代

稜線から1600mのピークまでは楽なヤブです。(写真2)ここより進路を真北に合わせて、ぬかるみに気をつけながら進めば待望の下田代です。3時間弱で行けると思われます。

クビレ田代は名前の通り中間部がくびれていて、上田代は下田代の3倍ほどの面積があります。上田代の東側にキャンプ場といっても差し支えないほどのサイト適地があります。水場もしっかりしており、適度な水量で

うまそうな水がながれています。また北側の矢櫃沢源頭部は岩魚のつかみ取りに最適です。冷たくて10分経たずに手がしびれます。かつて現役で1時間ほど格闘して、5匹捕まえた猛者もいます。

クビレ田代の南東の1700mの等高線が亀の頭の形をしているのが、ゴキタ沢源頭です。ゴキタ沢の命名は某OBのあだ名から取ったと聞いています。源頭の水は煮炊きには問題ありませんが、水割りにはチョットという感じです。プレートが10数枚打つてあります。(クビレのはかなり片付けてあります)ゴキタ沢は実川林道に出る直前で、倒木で通りにくくなっていますが、1時間足らずで下ることは可能です。

クビレから源頭までは、毎年苦勞させられます。コースリーダーのセンスによって矢櫃沢経由で6回中、3回は途中ビバークを余儀なくされています。従って日帰りではクビレ田代から来たルートを上って下山するのがベストです。

山中でサイトするなら上田代キャンプ場、またはゴキタ沢源頭がいいと思います。

登る季節は山菜の取れる初夏、キノコの秋口がおすすです。運がよければ角瓶が収穫できるかもしれません。

〔新執行部紹介〕



馬場 隆彰
会計・情報係、2班
理工学部情報科学科
出身地：埼玉県
明治大学付属明治高等学校



鈴木 優花
主務・気象係、4班
文学部史学地理学科
出身地：埼玉県
春日部共栄高等学校



諏訪部 貴亮
主将、手白小屋係・通信係、3班
農学部農学科
出身地：神奈川県
桐光学園高等学校



田口 和昌
4班 PL、記録係
農学部農学科
出身地：神奈川県
本郷高等学校



内山 嘉穂
3班 PL、針生小屋係
農学部農学科
出身地：静岡県
浜松日体高等学校



鈴木 竜一
2班 PL、手白小屋係
商学部商学科
出身地：栃木県
石橋高等学校



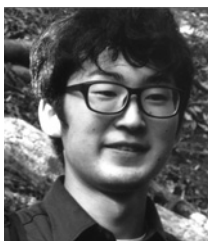
荒澤 裕司
1班 PL、衛生係
理工学部機械工学科
出身地：北海道
札幌月寒高等学校



中沢 公大
2班 SL、通信係
理工学部電気電子生命学科
出身地：山梨県
山梨学院大学付属高等学校



渡辺 千佳
1班 SL、気象係
農学部農学科
出身地：東京都
日本大学桜ヶ丘高等学校



鴨志田 岳大
1班 SL、編集係
文学部史学地理学科
出身地：東京都
明治大学付属中野高等学校



上出 稜
1班 SL、生田総務、トレーニング係
農学部農学科
出身地：千葉県
昭和学院秀英高等学校



山崎 友也
4班 SL、装備係、トレーニング係
文学部史学地理学科
出身地：東京都
明治大学付属中野高等学校



眞野 祐輔
4班 SL、気象係、針生小屋係
理工学部機械工学科
出身地：神奈川県
成城高等学校



馬場 大志
3班 SL、装備係
法学部法律学科
出身地：広島県
広島なぎさ高等学校



勝田 三月
3班 SL、編集係
農学部農学科
出身地：千葉県
成田国際高等学校

平成26年度現役指導スタッフ紹介

●部長 長峰 章

●顧問 坂本 清 新田 功

●監督 諏訪本 充弘 (751)

●コーチ 井上 堅一 (1064) 尾崎 剛史 (1174)

杉山 文啓 (1252) 沓澤 優子 (1258)

安田 光輝 (1264)

年間行事予定

平成25年 10月 ワーク合宿 (済)

11月 秋合宿 (済)

平成26年 2月 スキー合宿

3月 春合宿

4月 新人歓迎W

5月 新人養成W

7月 初夏W

8月 夏合宿 (地域未定)

9月 正部員養成W

9月 リーダー養成W

■山小屋の利用を希望する方へ

下記の現役小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘 (手白小屋)

諏訪部 貴亮 080-1359015410

鈴木 竜一 080-1405118881

○針生山荘 (針生小屋)

内山 嘉穂 080-1692011970

眞野 祐輔 080-1564216585

■平成25年度卒業生歓送迎会のお知らせ

日時 平成26年3月1日 (土) 13:00~15:30

受付開始 12:30

会場 明治大学 岸本・宮城ホール

(リパティタワー23階)

会費 6,000円

寒中御見舞申し上げます。

昭和 39 年度卒業 山久会



寒中お見舞い申し上げます



昭和40年度卒業 横八会

	566	588	572	565	569	567	
後列左より	松本栄作	桑原新太郎	金本良明	稲葉皓一	愛甲聰	石井信明	
	575	585	583	578	587	570	592
前列左より	野田昌宏	小堀成明	橋本勝	中村泰治	水落英正	一色雅男	篠田勇

於：箱根レイクホテル

編集後記

BN 879 井上 稔也

昨年暮れの明早戦は“国立”最後の決戦との前ぶれが効いたのか、事前の戦績がイマイチだったにも拘らず、本当に久しぶりの超満員（公式発表は4万7千人）でした。私が卒業した昭和57年の6万7千人が国立のスポーツイベントでは最多記録だそうです。この日の体感はそのに匹敵するものでした。

来年以降の会場は未定とのことです。5年後に再びこの地で宿敵相手に熱くなれるよう、明大ラグビーの奮起に期待しましょう。

訃報

BN 323 高橋竹二郎OBが平成25年9月14日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

発行日	平成二十六年一月
編集	鈴木 康弘 一色 雅男
	池上 勝彦 石井 克太
	猪狩 稔 加藤 章一
	井上 稔也 日暮 浩美
発行者	明治大学体育会
	ワンダーフォーゲル部なため会
印刷所	三協印刷株式会社